【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成17年2月10日(2005.2.10)

【公表番号】特表2000-514486(P2000-514486A)
【公表日】平成12年10月31日(2000.10.31)
【出願番号】特願平10-505561
【国際特許分類第７版】
　Ｃ１１Ｄ　10/04
// Ｃ１１Ｄ　 1/94
【ＦＩ】
　Ｃ１１Ｄ　10/04
　Ｃ１１Ｄ　 1/94

【手続補正書】
【提出日】平成16年4月30日(2004.4.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成１６年４月３０日

特許庁長官 殿

特許庁 16.5.6 出願支援課 藤居

１．事件の表示　　平成１０年特許願第５０５５６１号

２．補正をする者

名　　称　　ユニリーバー・ナームローゼ・ベンノートシャープ

３．代 理 人　　東京都新宿区新宿１丁目１番１１号 友泉新宿御苑ビル
(郵便番号 160-0022) 電話 (03)3354-8623
(6200) 弁理士 川 口 義 雄

４．補正命令の日付　　自 発

５．補正により増加する請求項の数　　なし

６．補正対象書類名　　請求の範囲

７．補正対象項目名　　請求の範囲

８．補正の内容

（１）請求の範囲を別紙の通り補正する。

［別　紙］

請　求　の　範　囲

１．（ａ）一種の陰イオン性界面活性剤、数種の陰イオン性界面活性剤またはその混合物１０～７０重量％と、

（ｂ）双性イオン性および／または両性界面活性剤２～２０重量％と、

（ｃ）飽和脂肪酸石鹸と不飽和脂肪酸石鹸の比が１：１より大きい脂肪酸石鹸３～２５重量％と

を含む固形石鹸組成物。

２．陰イオン成分が、

（ａ）式$RCO_2CH_2CH_2SO_3M$のイセチオン酸塩であって、ＲがC_7-C_{21}アルキルまたはアルケニル基であり、Ｍが可溶化陽イオンであるイセチオン酸塩、または

（ｂ）アルキルグリセリルエーテル硫酸塩、または

（ｃ）アシルイセチオン酸塩

のいずれかである、請求の範囲第１項に記載の組成物。

３．両性成分が、次式を有し、

$$R^1-[-C(=O)-NH(CH_2)_n-]_m-N^+(R^2)(R^3)-X-Y$$

上式で、R^1は炭素原子７～１８個のアルキルまたはアルケニル、

R^2およびR^3はそれぞれ独立に炭素原子１～３個のアルキル、ヒドロキシアルキルまたはカルボキシアルキル、

ｎは２～４、

ｍは０～１、

Ｘは、任意選択で水酸基で置換された炭素原子１～３個のアルキレン、

Ｙは$-CO_2^-$または$-SO_3^-$であり、

あるいは次式のアミドベタインであり、

$$R^1-CONH(CH_2)_m-\underset{\displaystyle R^3}{\overset{\displaystyle R^2}{\overset{|}{\underset{|}{N^+}}}}-CH_2CO_2^-$$

上式でmは２または３である、請求の範囲第１項または第２項に記載の組成物。

４．両性／双性イオン性成分が組成物の２～１０重量％含まれる請求の範囲第１項から第３項のいずれか一項に記載の組成物。

５．両性成分が組成物の３～７重量％含まれる、請求の範囲第１項から第４項のいずれか一項に記載の組成物。

６．C_{16}またはそれ以上の鎖長の成分が混合物の３０～１００％含まれ、C_6-C_{14}の鎖長の成分が０～４０％含まれる、請求の範囲第１項から第５項のいずれか一項に記載の組成物。

７．脂肪酸の混合物がC_8-C_{18}の鎖長の成分を含む、請求の範囲第１項から第６項のいずれか一項に記載の組成物。

８．混合物が主として$C_{12}-C_{18}$である、請求の範囲第７項に記載の組成物。

９．混合物が主として$C_{16}-C_{18}$である、請求の範囲第８項に記載の組成物。

１０．脂肪酸石鹸が組成物の５～１５重量％含まれる、請求の範囲第１項から９のいずれか一項に記載の組成物。